

テクノスーパーライナーの実用化について

平成14年5月

国土交通省海事局

国土交通省では、テクノスーパーライナー（TSL）をはじめとする高度船舶技術を活用した新しい海上輸送システムの開発・事業化に取り組んできたところであるが、このたび、海運、造船、物流、商社及び日本政策投資銀行から出資を得て、TSLの保有・管理等を行う新会社が設立され、6月中旬に業務を開始できる運びとなった。概要次のとおり。

1. 経緯

- 平成12年8月 TSLの運航を希望する事業者を募集、8企業等から14航路の応募
- 13年1月 扇大臣小笠原視察
- 9月 石原東京都知事、小笠原航路へのTSL投入を決断
- 14年3月 小笠原海運による用船が決定（TSLの小笠原航路への投入）
- 5月 TSLシステムズの増資（TSL保有管理会社の設立）
- 6月 TSL保有管理会社の業務開始（予定）
- 7月 用船契約および建造契約の締結（予定）

2. 新会社の概要

1)資本金：3,280百万円（出資者の内訳は下表のとおり）

（単位：百万円）

会社名	出資額	会社名	出資額
三井造船(株)	1,000	日立造船(株)	100
日本政策投資銀行	980	三井物産(株)	100
石川島播磨重工業(株)	300	三菱重工業(株)	100
日本郵船(株)	200	三菱商事(株)	100
川崎重工業(株)	100	日本通運(株)	50
住友重機械工業(株)	100	(株)日本海洋科学	50
日本鋼管(株)	100	合計	3,280

- 2)事業内容：・海上輸送システムの開拓事業（市場調査、事業化環境整備等）
・運航や保守管理を支援する総合的な技術支援システム（トータルサポートシステム：TSS）の開発及び提供
・TSLを始めとする新形式超高速船舶の保有・貸与 他

3. TSLの就航

TSL保有管理会社の保有するTSL第一船は、東京-小笠原航路に投入（平成16年度末）される。これにより、本土から小笠原へのアクセスが大幅に改善され（片道26時間 約16時間）島民の利便性の向上や小笠原の活性化に大いに寄与することが期待される。小笠原航路用TSLの概要は別紙のとおり。

小笠原航路用 TSLの概要

完成予想図



おがさわら丸



(参考) TSLとおがさわら丸の比較

	TSL	おがさわら丸
全長	140m	131m
全幅	30m	17.2m
総トン数	14,500トン	6,679トン
速力	時速約 70km	約 42km
旅客数	725人	1,031人
航海時間	約 16時間	約 25.5時間

